

藻場造成に係る研修会

和歌山県漁業協同組合連合会 主事補
長尾 常靖

開催日時：令和7年7月8日（火）13：30～15：30

開催場所：和歌山県立情報交流センターBig・U 会議室1（和歌山県田辺市新庄町 3353-9）

研修対象者：漁業者、漁協・漁連職員、自治体職員

出席者数：57名

講演名：「漁場藻場の現状と未来 ～全国各地の海の中を見てきて～」

講師：株式会社 渋谷潜水工業 代表 渋谷 正信

1. はじめに

近年、和歌山県内の藻場の衰退が著しく、重要な漁業であるイセエビ刺網漁業やアワビやヒジキ等を対象とした採介藻漁業への影響が顕著に表れている。管内漁協が藻場造成に取り組んでいるものの、藻場の回復にはつなげられていない。

そこで、和歌山県内だけではなく、全国の海の状況や藻場回復の成功例について実際に全国で取り組んでこられた講師を招き、漁業関係者に対して説明をってもらう場を設け、和歌山の藻場復活を目指した研修会を開催する。

2. 研修会の概要

本研修会は、令和7年7月8日に和歌山県田辺市の和歌山県立情報交流センターBig・Uにて開催された。当日は漁業者15名、漁協・漁連職員15名、自治体職員27名の合計57名の出席があった。

研修会では、株式会社渋谷潜水工業 渋谷代表から「漁場藻場の現状と未来 ～全国各地の海の中を見てきて～」と題し、全国での磯焼け対策の取組について、御講演いただいた。

3. 講演

（1）事例紹介

ア 長崎県五島市

魚とウニによる食害によりヒジキの水揚げ量が激減したが、仕切り網及び仕切り網内の食害生物駆除により3年後には水揚げができるようになった。またヒジキにアオリイカが産卵した。

アオリイカ増殖のためにイカ芝を入れていたが、入れる場所により産卵するイカの数が異なっていることに気づき、産卵数が多い地点には重点的に芝を入れることが効果的だと分かった。

イ 北海道奥尻島

コンブを冬場に垂下式養殖し、そのまま海底へコンブを沈める。そうするとウニの身入りが改善され、より高値でウニが取引されるようになった。また、養殖コンブでブルーカーボンの登録ができた。

ウ 三重県鳥羽市

海藻が減少していると感じたことをきっかけに海域調査を行った結果、アラメ・カジメの海藻が藻食魚類（アイゴ・ブダイ・

イスズミ等)による摂餌により広大な面積で減少していることが発覚した。

対策として、藻食魚類の買い取り、ヒジキ及び海藻増殖活動等を行う等、試行錯誤を繰り返している。

エ 千葉県銚子漁協

銚子沖では洋上風力の構想があり、地元の銚子漁港から、未来の漁業について構想した結果、沖合の漁業だけではなく、地先での操業を重視して漁場整備をしたいと話があった。この結果、港湾施設内（漁港内）での藻場造成に取り組むことと、イセエビ増殖のための増殖礁（袋詰め玉石工のネットにイセエビが付きやすい）の設置等を行っている。

(2) まとめ

藻場を復活させるには時間も費用も掛かり、失敗することも多々あるが、①「未来の漁業をどうするか、テーマで取り組むこと」②「そのために海域の実態を知ること」③未来をどうするかを軸にした調査を実施すること④「調査に基づき実行実践すること」が大切であり、原因を突き止め、対策を練り、あきらめず実行することにより成功に近づく。

4. 謝辞

講師を快くお引き受けいただいた渋谷氏には、大変お忙しい中、貴重なご講演をいただきまして厚く御礼申し上げます。

本講演会は、受講した漁業者、漁連・漁協職員等にとって、大変有意義な研修会となり、今後の県内藻場の復活に向けた取組に役立つものと考えます。

